

再編まちづくりと曼荼羅の構造



胎藏界曼荼羅（西院曼荼羅）

はじめに

曼荼羅とは、仏教特有のものでなく、世界に共通する太古の直観というべきものである。仏教の曼荼羅では、空海が中国からもたらした両部曼荼羅（胎藏曼荼羅・金剛界曼荼羅）に代表される。仏教の曼荼羅は、太古の直観というべきものに仏教独自の文脈が加わり形成されてきたと思われる。

仏教は、釈尊の思想に始まるが、これは古代都市が出現し都市コミュニティが形成していく過程で新しい生活の原理や規範を打ち出したものであった。これが経典としてまとめられたが、やがてこれを図画によって象徴的に表現された。それが両部曼荼羅などの仏教の曼荼羅である。

両部曼荼羅は釈尊入寂の約 1000 年後に図化されたものであるが、曼荼羅には仏教思想の根本である縁起（あらゆるものを関係性から捉えること）から展開される世界観（コミュニティ観）が埋め込まれている。

空海は、両部曼荼羅の図画について具体的説明をしていない。ありのままを見よ、ということであろう。

曼荼羅は一般に「世界（宇宙）の縮図・聖なる空間」「本質を図示せしもの」などといわれ、「中心 - 周縁」の構造をもつ。また曼荼羅には村落、寺院伽藍、王宮、住宅などを含むすべての共同体施設である「都市」を対象として、宇宙的秩序を形成するための計画原型図となる都市曼荼羅と、儀式儀礼のために清浄に保つべき聖なる区域を示す儀礼曼荼羅とがある。

曼荼羅を構造的に解釈すると、曼荼羅がまちづくりに示唆を与えることがわかる。それは、万物を構成要素とする「包含性」、人間を含むあらゆるものが同等であるとする「万物の同等性」、多様な用途・多様なコミュニティの棲み分けを可能にする「多様性の尊重と棲み分け」、自己組織的コミュニティがフラクタル構造を持った多次元的統合体を形成する「多様な自己組織的コミュニティの並存」などである。

阪神大震災、東日本大震災を経験し、東南海地震の発生が予想される中、この曼荼羅から解釈できる知恵をまちの再編や復興、まちづくりに生かしていきたい。

1. 曼荼羅のパラダイム

1.1 曼荼羅とは (図1)

曼荼羅は、一般に「世界(宇宙)の縮図・聖なる空間」「本質を図示せしもの」などと理解される。

曼荼羅の範図(パラダイム)は、「中心-周縁」の構造をもつ(図1)。中心は、エネルギーが発散、収斂、変容する点であり、中心と周縁との間に展開、収斂の運動がある。また右回りに回転する。



図1. 曼荼羅の範図(パラダイム)

(ジュゼッペ・トウッチ『マンダラの理論と実践』により作成)

1.2 都市曼荼羅と儀礼曼荼羅

曼荼羅には、都市曼荼羅と儀礼曼荼羅がある。都市曼荼羅とは、「都市」を対象として宇宙的秩序を形成するための計画原型図である。「都市」とは、村落、寺院伽藍、王宮、住宅などを含むすべての共同体施設をいう。

1.3 儀礼曼荼羅

儀式儀礼のために清浄に保つべき聖なる区域(宇宙の依代)をつくる。仏教系の儀礼曼荼羅としては、胎蔵曼荼羅、金剛界曼荼羅、カーラチャクラ・マンダラなどがある。

2. 都市曼荼羅

2.1 マンドゥーカ・マンダラ(図2)

「マンドゥーカ・マンダラ」は6~7世紀に成立した『マーナサーラ』に示され、「都市」の配置計画に使われる代表的な曼荼羅である。

マンドゥーカ・マンダラは、大宇宙の縮図であり「都市」(都城、村落、寺院伽藍、住宅などを含むすべての都市施設)の計画原型である。

2.2 アルタシャーストラ(図3)

3~4世紀に成立(B.C.200~A.C.200説もある)した『アルタシャーストラ』は、インドにおける

都市理念の代表的文献である。神殿(寺院)を核に、周辺は内→中→外の各帯として機能分化しており、住宅地は四姓の棲み分けとなっている。

2.3 ラサ(図4)

ラサは、チベットの中心都市であり、トゥルナン寺の門前町とポタラ宮周辺の二極構造を有する。

トゥルナン寺を中心とする曼荼羅構造をしており、中心(キル)としてトゥルナン寺、周縁(コル)として外・中・内の巡礼路が配されている。

3. 儀礼曼荼羅

3.1 胎蔵曼荼羅(図5)

胎蔵曼荼羅は、『大日経』に基づいたもので、理、すなわち客体、宇宙の物質的な原理の象徴として存在のあり方を問う役割を有している。

胎蔵曼荼羅の構造は、一切の現象を中心(大日如来)から外へ向かって展開させたものである。

3.2 金剛界曼荼羅(図6)

金剛界曼荼羅は『初会金剛頂経』に基づくもので、智、すなわち主体としての人間の精神的あり方、智の可能性を問う役割を有している。

金剛界曼荼羅の構造は、根本会(成身会)を基本パターンとした複数の曼荼羅の集合体である。

3.3 カーラチャクラ・マンダラ(図7)

カーラチャクラ・マンダラは、11世紀につくられた『時輪タントラ』(後期密教)による曼荼羅で、ほとんどインド都城の理念型を示している。

4. 仏教にまちづくり思想を探る理由

4.1 共同体での人間のあり方の原理

釈尊は、紀元前5世紀ごろ、都市が出現した時代に、世界各地で輩出した思想家の一人である。

古代都市において多くの都市問題が発生し、生活上での精神原理を求め動きがあった。釈尊の思想は、共同体における人間のあり方の原理を示すものであった。この仏教思想は日本の共同体のあり方に影響を与えてきた。

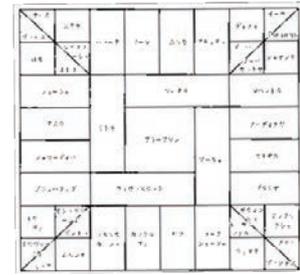


図2. マンドゥーカ・マンダラ

(布野修司『曼荼羅都市』)

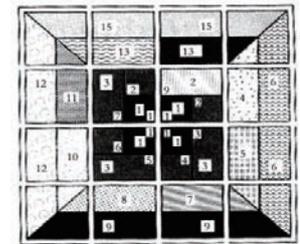


図3. アルタシャーストラ
「城塞都市」の応地堀明による復元概念図

(布野修司『曼荼羅都市』)

核 心 1 神殿(寺院) 郡
内 周 帯 2 王宮 2・3 最良の住宅地
中 周 帯 4 北殿東 5 南殿東 7 東殿南 8 西殿南
10 南殿西 11 北殿西 13 西殿北 14 東殿北
外 周 帯 6 北殿東と南殿東の放方 9 東殿南と西殿南の放方
12 南殿西と北殿西の放方 15 西殿北と東殿北の放方

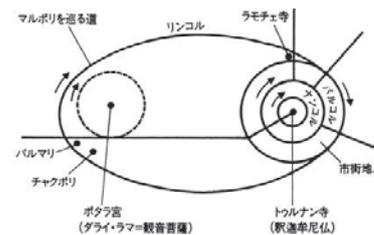


図4. ダライ・ラマ時代のラサの構造

(奥村直司『チベットの密教と文化(第2版)』)

4.2 仏教思想の現代性

仏教の基本となる縁起理論(関係の存在論)は、専門化、断片化している現代の思考からの脱却に資するものであり、現代の複雑系理論にも通じている。また縁起に基づく生活規範原理は、住民の潜在能力の再認識と活用や南海トラフ巨大地震への備えに役立つ。

5. 縁起

5.1 縁起とは(図8)

縁起とは、世界や個人は他との関係が縁となって生起しているという原理をいう。個人は、他に影響を与えると同時に、個人は周りから影響を受けている。この相互依存関係によって世界がつくられている。したがって個人各々の自由な意思と行為が世界をつくりだしている。このことから人間には生活規範が必要となる。

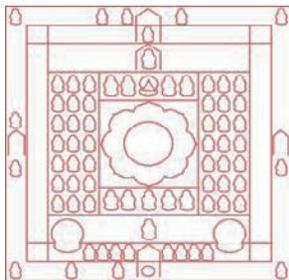


図5 胎蔵曼荼羅
(生命誌ジャーナル 2006年春号)

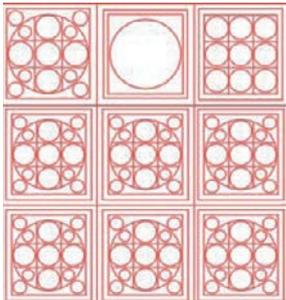


図6 金剛界曼荼羅
(生命誌ジャーナル 2006年春号)



図7 カーラチャクラ・マンダラ
(布野修司『曼荼羅都市』)

5.2 個人の特質 (図9)

縁起からみた個人は、同体、異体という二つの異なった性格をもっている。同体とは、個人は社会から独立して存在するものでなく、相関関係の現象(相互浸透)として存在することをいう。異体とは、個人それぞれが固有の本性・独自に働くことであり、これにより個どうしの相互作用が生まれる。

5.3 個どうしの相互作用 (図10)

縁起理論(華嚴哲学)では、個どうしの相互作用によって、新しい世界が不断に形成される。これを「挙体生起(こたいしょうぎ)」という。このことと同じ現象を現代の複雑系理論では、「創発」と称している。

6. 胎動曼荼羅

6.1 形成過程

胎蔵曼荼羅の原型は、仏教の初期

経典『大会経』に描かれる会座(車座)である。7~8世紀ごろ、大乘仏教における多仏化やインド諸王朝の分裂化した社会情勢の解決法として、大日如来による多仏の総合的統合が行われ、共生しうる平等性・棲み分けが示された。また、縁起に示された中心のない関係性(図8)において個どうしの相互作用による挙体生起(創発)によって世界が創られることが表現された。

6.2 構造

①無中心の関係性の曼荼羅表現(図11)

胎蔵曼荼羅では、中心性のない関係性を中空の環と表現している。中空を象徴しているのが大日如来であり、あらゆる現象を生み出す常住不変の実体である。

②空間的構造(表紙図)

胎蔵曼荼羅では、中心性のない胎蔵曼荼羅の空間的構造は「包括性」「同等(水平)性」「多様性の尊重と棲み分け」「カオスとコスモスを持つ世界」「中心の点」「周縁」からなる。「包括性」は、仏、菩薩だけでなく他の神々、精霊、鬼神まで、森羅万象を包含することで示す。

「同等(水平)性」は異なった価値・思想・役割の諸神の車座配置で、「多様性の尊重と棲み分け」は、観音・明王・天部などの諸尊のグループ(部族社会の投影)として、機能に基づいて「棲み分け」ていることで示す。「カオスとコスモスを持つ世界」は、中央の仏の世界(コスモス)から外周の精霊、鬼神の世界(カオス)で示す。さらに「中心の点」(実在)は、大日如来で示す。また「周縁」(現象)は、大日如来を取り囲む仏、菩薩、神々などで示す。

③動的構造(挙体生起)(図12、13)

胎蔵曼荼羅の動的構造は、挙体生起として表現される。これは個体(仏)間の相互作用(動的関係)から世界が不断に形成されていくことを示す。曼荼羅はパラパラ漫画のように絶えず動いているのである。

挙体生起(創発)のメカニズムは、

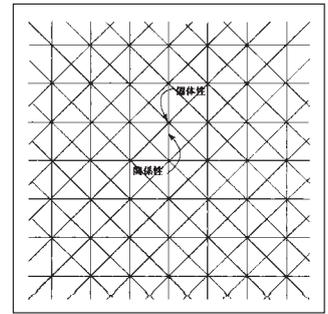


図8 関係の結節点としての個人(個性)
(小林道憲『複雑系の科学』)

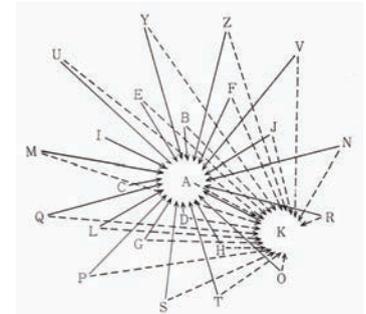


図9 主伴互具
(井筒俊彦『コスモスとアンコスモス』)

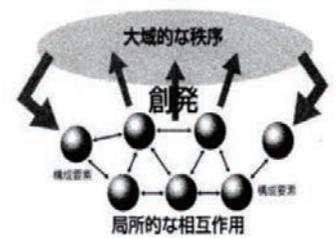


図10 創発
(井庭崇他『複雑系入門』)

展開~収斂と回転からなる。中心点と周縁部の間で反復される存在エネルギーの脈動であり、カオスとコスモスの相互運動である。具体的には例えば、仏教者による理論(般若)と実践(方便)の双方向の活動であり、実践は貧民救済などの慈善事業、社会資本建設などの社会事業である。

回転とは、右回りに相互依存関係の世界→個体間の相互連関→個体間の相互作用→創発→新たな相互依存関係の世界というスパイラルアップする生成の循環構造をいう。

回転の中心に、「中心」であり「実在」である法界体性智が存在し、中心の周りに、「現象」として展開する四智が存在する。「中心」であり「実在」である法界体性智と「現象」として展開する四智を合わせて、五智という(表1)。



図11 中心の点と周縁



図12 拳体生起 (創発) のメカニズム
—展開～収斂—



図13 拳体生起 (創発) のメカニズム
—一回転—

7. ケーススタディ (表2)

五智の概念を、ブータンの開発理念である「GNH」の体系と対比させると、実在としての法界体性智に相当するのが、開発理念「GNH」であり、現象としての四智は、開発理念と指標として、それぞれ、「優れた統治力と良い統治、心理的幸福」、「伝統文化の振興、環境保全」「文化の多様性、環境の多様性と活力」「持続可能な社会経済開発と時間の使い方とバランス、地域の活力、健康、教育、生活水準」に相当する。

8. 曼荼羅が再編まちづくりに示唆を与えること

8.1 コミュニティのありかた

曼荼羅が再編まちづくりに示唆を

与えることは、第一にコミュニティのありかたである。

- 1) 包含性
まちは、自然など万物を構成要素としている小宇宙である。
- 2) 万物の同等性
人間を含む万物は同等である。
- 3) 組織構成員の同等性
世話役はいるが、構成員は参加も義務も責任も同等である。
- 4) 多様性の尊重と棲み分け
多様なコミュニティが棲み分ける。
- 5) 多様なコミュニティの並存
世界は多元的統一体である。

8.2 時々刻々の新創造

曼荼羅が再編まちづくりに示唆を与えることの一つは、時々刻々の新創造である。

1) 創発を促すまちづくり

住民がそれぞれ自律的に活動し、相互に作用しあい創発をうながす。

2) ボトムアップとトップダウンの双方向まちづくり

住民主体のまちづくりと行政都市計画の双方向の活動がなされる。

3) 開発戦略の思考プロセス

仏教でいう「開発(かいほつ)」とは、万物の本来の性格を生かすことである。思考のプロセスは、右回りにスパイラルアップする。中道(総体的・相対的思考)が「優れた統治」を可能にする。地域開発の本体は、「文化と環境」である。持続可能な社会経済開発は、多様な「文化と環境」の諸要素の相互作用から内発的に生成される。

表1 五智五仏

五仏 ()は金剛界	五智	方位	身色	唯心的 世界観
大日	法界体性智 智と絶対存在の合致、根源的意識。	中央	白	第九識
宝幢(阿閼)	大円鏡智 鏡における如く、森羅万象の元型が反映される智。(相互依存関係の世界)	東	(青)黒	第八識
開敷華王 (宝生)	平等性智 森羅万象がその原底から流出したはかない影像であるという意味における、万象の根源的な同一性に関する智。(同体・相互連関)	南	黄	第七識
無量寿(阿弥陀)	妙觀察智 平等性智によって、唯一なる存在が彼此として顕現する智。(異体・相互作用)	西	赤	第六識
天鼓雷音 (不空成就)	成所作智 力が妙觀察智によって行為に移され、そこから広がっていく智。(創発)	北	(緑)青	第五識

表2 五智の概念とブータンの開発理念「GNH」

五智の概念			GNHの体系	
五智	概念	基体	開発理念と四つの柱	九つの指標
法界体性智 *実在	智と絶対存在の合致、根源的意識。	・中空	・開発理念「GNH」 (国民の幸福)	
大円鏡智	鏡における如く、森羅万象の元型が反映される智。	・世界 (相互依存関係)	・優れた統治力	・良い統治 ・心理的幸福
平等性智	森羅万象がその原底から流出したはかない影像であるという意味における、万象の根源的な同一性に関する智。	・同体 ・本体 (相互連関)	・伝統文化の振興 ・環境保護	
四智 *現象	それ(平等性智)によって、唯一なる存在がいろいろな物として顕現する智。	・異体 ・はたらか (相互作用)		・文化の多様性 ・環境の多様性 と活力
成所作智	力がそれ(妙觀察智)によって行為に移され、そこから広がっていく智。(実践性)	・拳体生起 (創発)	・持続可能な社会経済開発	・時間の使い方 とバランス ・地域の活力 ・健康 ・教育 ・生活水準

『再編まちづくりと曼荼羅の構造』

発行：2015年3月

レクチャー：久保光弘(久保都市計画事務所)
作成協力：保持尚志(関西大学大学院博士後期課程)

(講演:2014年11月17日)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : http://ksdp.jimbo.com